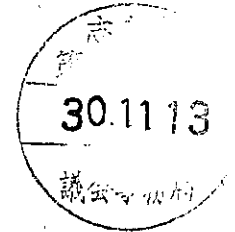


調査研究、研修、要請・陳情活動報告書



平成30年11月13日

志摩市議会議長 様		報告者	会派名 日本共産党 議員氏名 坂口 洋	
年月日	平成30年10月16日(火)			
時間	午後2時00分 ~ 午後3時50分			
参加者氏名	坂口 洋 (他会派と合同研修)			
用務先	住所	神奈川県三浦市三崎町城ヶ島養老子		
	名称	神奈川県水産技術センター		
目的・内容	目的：アワビ、サザエ等の種苗生産、中間育成について研修する。 内容：アワビ、サザエ等の種苗生産、中間育成について神奈川県水産技術センターの施設を見学しながら説明を受けた。			
成果・所感	別紙のとおり			

神奈川県水産技術センター 視察研修の所感

この水産技術センターを視察研修した主たる目的はサザエの種苗生産・中間育成について、志摩においてもできるかどうかを研究することであった。現在志摩市においては、海女漁をはじめとする漁業の大きな課題は漁獲量の安定、収入の確保であるが、従事者の高齢化が進む中で、それをどう確保し広げていくか多くの検討課題がある。サザエに注目する一つの理由は、従事者の高齢化が進んでもアワビなどに比較して捕獲しやすい、漁をしやすい獲物であるからである。「年を取って、深いところまで潜る漁がだんだんできなくなってきた」という海女さんが増えている。このよう方には、サザエの放流は求められているのではないだろうか。


志摩ではサザエの種苗生産・中間育成・放流はまだ行われていない。この神奈川県水産技術センターの取り組みを見せていただき、志摩においても十分にできるものだと感じた。設備的には、難しいものでなく、今までの三重県・志摩市の既存の設備・施設の活用できるものであり、新設するとしても水槽と取水施設であり、初期の投資としては多くの費用はかからないのではないかと思った。

種苗・中間育成については、いわゆる「やり方のコツ」を学ばせてもらわなくてはならない。産卵をさせる方法、餌となる珪藻の付け方などである。このセンターでは稚貝を育成用の付着版に付着させる前に珪藻を発生させ付けることに苦労していた。また、付着版からネットへの移行した際の死貝も多くなっているとのことだった。餌の取り方に問題があると思われる。人工的に珪藻を発生させる方法はなく自然と付くのを待たなければならない。板を海水につけておけば自然の汚れのごとく付いてくるものだと簡単に思っていたが、自然まかせであるがゆえに苦労するということだった。現在の栽培漁業の技術はタイやヒラメなどの魚類、エビ、アワビなどは進んでいるが、そのエサとなる植物性プランクトンやこの珪藻のような単純な生物が発生するメカニズムの基礎的研究がやや遅れていることを感じる。

獲るだけのかつての里海から、人の手を加え、海女漁をはじめとする持続可能な漁業の里海を目指す志摩市もこのサザエの種苗・中間育成・放流を始めるべきだと思う。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成30年11月13日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 日本共産党 議員氏名 坂口 洋	
年月日	平成30年10月17日(水)		
時間	午前9時00分 ~ 午前11時00分		
参加者氏名	坂口 洋 (他会派と合同研修)		
用務先	住所	千葉県南房総市白浜町乙浜小堰 1307-14	
	名称	千葉県水産振興公社白浜事業所乙浜支所	
目的・内容	目的：アワビ、サザエ等の種苗生産、中間育成について研修する。 内容：アワビ、サザエ等の種苗生産、中間育成について千葉県水産振興公社白浜事業所乙浜支所の施設を見学しながら説明を受けた。		
成果・所感	別紙のとおり		

千葉県水産振興公社白浜事業所乙浜支所 研修視察所感

千葉県では年間 160 万個のアワビを種苗し、殻長 25mm で放流している。ここでは他にもマダイ、ヒラメ、マコカレイ、クルマエビなどの種苗をしていた。栽培漁業の先進事例を視察させてもらうことができた。


千葉県の H29 年 (2017 年) 度のアワビ漁期の状況を見てみるとアワビ漁期 (4 月 1 日～9 月 15 日) の漁獲量は平年並みであったという。千葉全県の 9 割以上を占める主要 6 漁協のアワビ類漁獲量は 111 トンで、前年より上回った。H14～H28 年の平年値 116 トンからはやや下回ったものの平年並みの漁獲量といえる。

クロアワビ漁獲物に占める放流貝の割合は一般漁場 3 地先 (東安房 1、鴨川市 1、新勝浦市 1) では 1.9～22.9% であった。注目すべきは、漁業者が水産資源の維持増大に向け積極的に取り組んでいる点である。一定の数年間をアワビ禁漁とする区域を設け、大きくしてから採捕する輪採漁場をつくっていた。放流貝を集約的に管理する東安房漁協千倉地区の輪採漁場では放流貝割合 89% であった。最近 14 年間の同地区全体クロアワビ漁獲量は 17～18 トンで、輪採漁場はそのうち 2.5～6.4 トンを占め全体を下支えしている。このような漁業のやり方は志摩でも大いに学ぶべきである。

中間育成中の死亡率の変動に悩んでいるのは三重県と同じであった。原因はよく分からないとのことだが、感染症によるものではないかと思われる。三重県における、ここ 1～2 年のアワビの種苗は極めて不調である。志摩市においては毎年約 42 万個の放流をしているが、H29 年度はその個数が県内で確保できず、15 万個減らさなくてはならなかった。H30 年度は県内のものはまったく確保できず、42 万個すべてをいくつかの他県から取り寄せた。その原因はよく分からないが、感染症の可能性が高い。貝類の感染症は脅威的なものである。志摩の真珠養殖業が一気に衰退したのもウイルス性の感染症による真珠母貝の大量死が原因であった。アワビの種苗について各施設間で全国的な情報を共有することは極めて重要と感じた。そして、行政もこれら「貝類の病気」の基礎的研究への援助を強め、対策を確立すべきである。持続可能な漁業を目指す志摩市にとって極めて重要なことだと、この視察で考えさせられた。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成30年11月13日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 日本共産党 議員氏名 坂口 洋	
年月日	平成30年10月17日(水)		
時間	午前11時30分 ~ 午後3時00分		
参加者氏名	坂口 洋 (他会派と合同研修)		
用務先	住所	千葉県館山市館山 1564-1	
	名称	館山市役所 経済観光部 みなと課	
目的・内容	<p>目的：志摩市にある“みなとオアシス「渚の駅」海ほおずき”の活性化の参考とする。</p> <p>内容：みなとオアシス「渚の駅」たてやまのレクチャールームにおいて、事業概要、施設整備の目的と経緯、利用状況、効果、みなとオアシス認定のメリットなどについて観光みなと課の和田修課長から説明を受けた。</p>		
成果・所感	別紙のとおり		

みなとオアシス「渚の駅たてやま」視察研修所感

H24年3月に誕生した「みなとオアシス渚の駅たてやま」はいくつもの魅力ある海辺の施設であった。水槽で魚を観ることができる海辺の広場、館山湾が一望できる展望デッキ、海洋民俗をテーマとした渚の博物館（館山市立博物館分館）や情報発信スペース、さかなクンギャラリー、客船ターミナル、レストランなどであった。

渚の駅たてやまの機能強化と魅力の向上としては①名誉駅長のさかなクンと連携した魅力向上、②ITを活用した施設の魅力向上、③ウミホテル長期飼育環境整備事業などがあった。これらは志摩の今後の施策におおいに参考にできるものである。

志摩の現状において、「海辺の魅力」を体感できる公的な施設が少ない。豊かな海があるもののその後れは、この館山のみなとオアシスを見ると強く感じる。太平洋側はもちろん内海の英虞湾を短時間の滞在でも海辺の魅力を感じることもできるところが欲しい。この館山のような海辺の広場、展望デッキのようなところが賢島の港や浜島にあってもよいのではないかと感じた。特に賢島は港方面に出るとわずかな真珠店と土産物店しかなく、あとは遊覧船で英虞湾をめぐるぐらいである。浜島の海ほおずきも施設内の入口の磯での体験だけでなく、前の自然の海を活用した取り組みを検討すべきである。

ウミホテル長期飼育環境整備事業は注目すべき、また参考にすべき取り組みであった。館山の豊かな海の象徴であるウミホテルを活用し、渚の駅たてやまの集客力の強化と交流人口の拡大を図るため、大学（お茶の水女子大湾岸生物教育センター）と連携し、ウミホテルの長期飼育に関する研究を行い、常時、観察会をできる環境を整備していた。館山でしか体験できない「コト消費」・着地型旅行商品の開発の一つの典型である。このような観察会の取り組みは、志摩でも常時でなくともできることではないかと感じた。かつて、ともやまでのウミホテル観察の取り組みは注目されたが継続されていない。


、「海のマルシェ」のような新鮮な魚介類を買い求めることができる施設も志摩にはない。賢島周辺や浜島にはぜひ欲しい施設だと強く感じた。

志摩は豊かな海があまりにも身近にあり過ぎて、訪れる方々がどのようなところに「海辺の魅力」を感じるのか理解ができていないところがある。議員も行政の担当も、このような各地の施設をもっと視察研修して考えるべきである。

志摩でも「みなとオアシス」の名を掲げるようになったが、そのことによる国等からの援助は何もない。今のままでは名前だけの「みなとオアシス」である。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成30年11月13日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 日本共産党 議員氏名 坂口 洋	
年月日	平成30年10月18日(木)		
時間	午前9時30分 ~ 午前11時45分		
参加者氏名	坂口 洋 (他会派と合同研修)		
用務先	住所	山梨県山梨市小原西 843	
	名称	山梨市役所 下水道課	
目的・内容	<p>目的：浄化槽整備推進事業（市設置型）取り組み、現状について視察研修する。 内容：市役所にて市設置型浄化槽整備推進事業を始めとした生活排水処理対策事業の説明を受けたのち、自治会施設に設置した合併処理浄化槽の現地視察を行った。</p>		
成果・所感	別紙のとおり		

山梨県山梨市 市設置型浄化槽整備推進事業 研修視察所感

山梨市役所においてレクチャーを受けた後、市が設置した合併処理浄化槽を現地に案内していただき見せていただいた。

山梨市は平成 17 年 3 月 22 日に山梨市、牧丘町、三富村が合併し、新「山梨市」が誕生した。そのことから、旧市町村で行っていた生活排水処理対策事業に違いがあった。今回の視察は、市が設置及び維持管理を行う市町村設置型合併処理浄化槽設置整備事業がどのように行われ、また維持管理がどのように行われているか、その問題点はないか等を視察することが主な目的であった。

合併処理浄化槽は個人の敷地に公費で市が設置することから、その住宅が個人の都合により空き家になった場合は、使用料の支払い義務がなくなる。そのため、設置した合併処理浄化槽のみが個人の敷地に残されることとなる。また、耐用年数が経過した場合、市が個人の敷地に埋設された合併処理浄化槽の設備を入れ替える必要が生じ、その世帯の都合等も考慮しながらの入れ替え作業を余儀なくされるなど確実な水質保全、維持管理と引き換えに多くの課題を抱える要因を作り出していると感じられた。

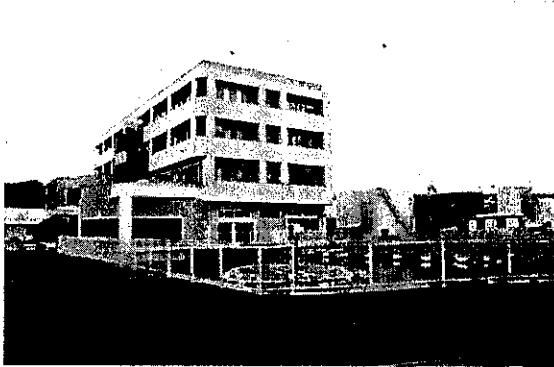
しかし、私がまず驚き、感心したのは「市が各戸の敷地に合併浄化槽を設置し貸し出す」という施策を考え実行した行政の姿勢である。地域の宝である美しい水を、「なんとしても守る」という強い決意と確固とした構えがなければできないものではない。今、志摩市においてもこのような強い姿勢が求められていると思った。

志摩市の下水道の接続率は依然として低いままである。下水道区域外での合併浄化槽設置も遅々として進まない。とりわけ、下水道区域外の、そもそも各戸の敷地内に合併浄化槽が設置できないような住宅密集地があり、その対策は考えられていない。そのようなところへの抜本的対策を考えた時、この山梨市のように各戸へとはいかないものの、市が集約的な合併浄化槽を設置すべき時が来ると思う。その時にここの事例は大いに参考になるものと思った。

生活排水の完全な処理こそが持続可能な未来都市への避けては通れない道である。

新風・日本共産党合同視察研修会

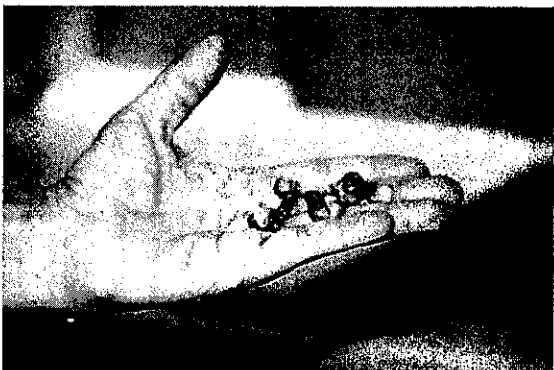
◎ 神奈川県水産技術センターにて（平成 30 年 10 月 16 日）



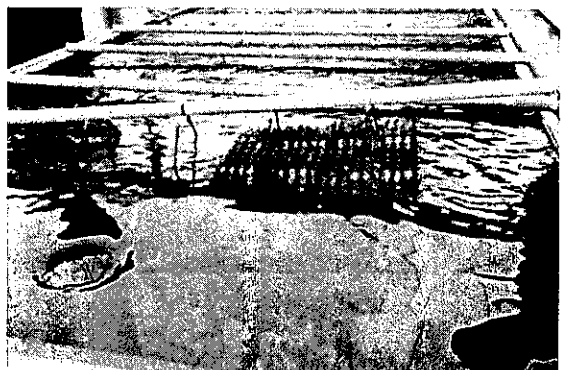
神奈川県水産技術センター



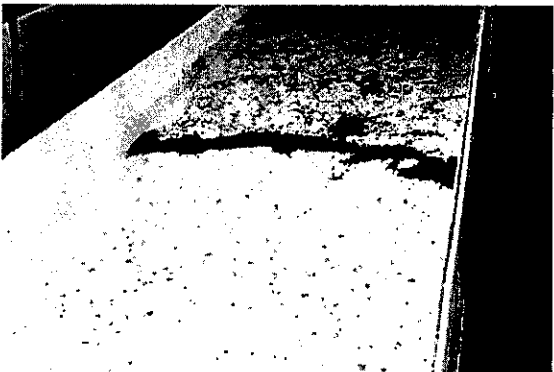
サザエの養殖



サザエの稚貝



波型塩ビ版を使用



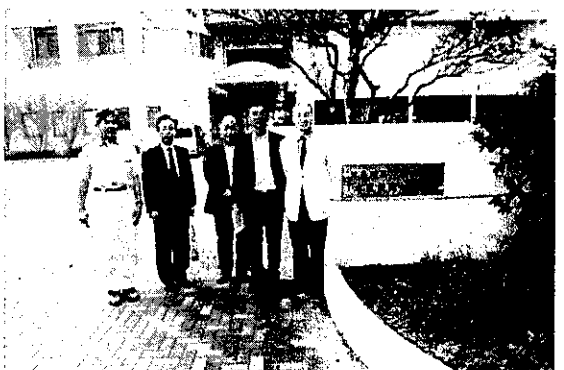
死貝の分別



大きくなったサザエの水槽



大きくなったサザエ

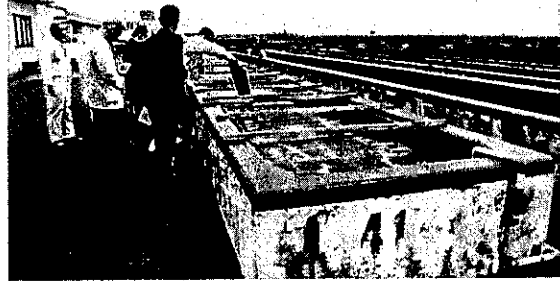


正門前にて集合写真

◎ 千葉県水産振興公社白浜事業所乙浜支所にて (平成 30 年 10 月 17 日)



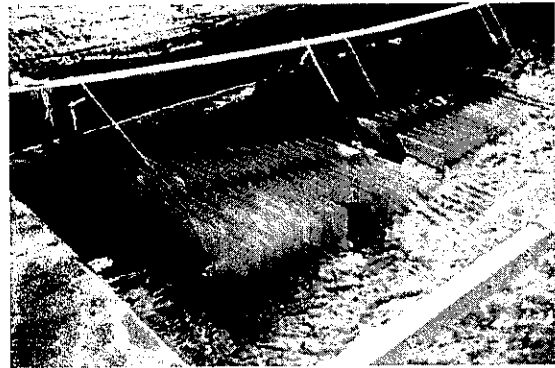
千葉県水産振興公社白浜事業所乙浜支所



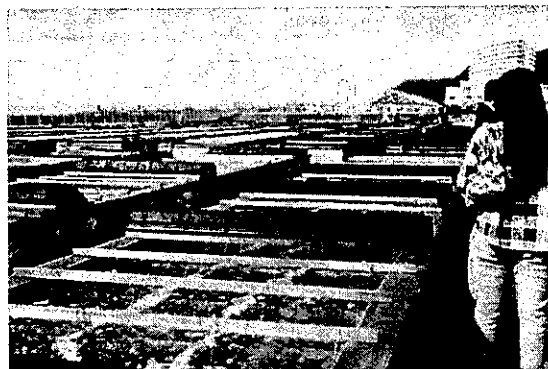
アワビ養殖の水槽



サイズ分け作業



平型塩ビ版を使用



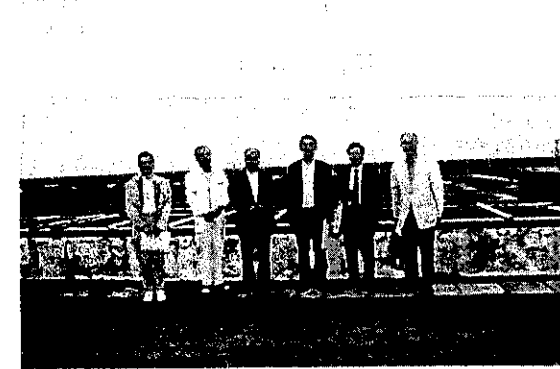
アワビの養殖用水槽



事務所内での座学



見本の貝殻と採寸版



水槽前での集合写真

◎ みなとオアシス '渚の駅' たてやまにて (平成 30 年 10 月 17 日)



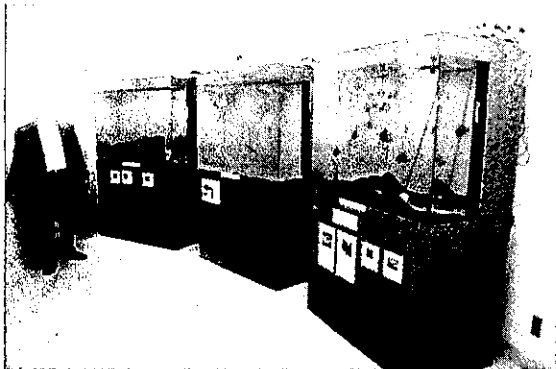
館山市市議会石井副議長あいさつ



館山夕日栈橋

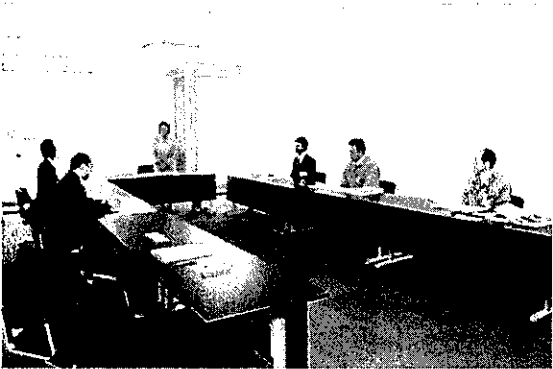


商業施設棟のテラス



海辺の広場の展示水槽

◎ 山梨市役所にて (平成 30 年 10 月 18 日)




山梨市市議会小野議長あいさつ



山梨市役所前での集合写真

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成31年 4月12日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 日本共産党 議員氏名 坂口 洋	
年月日	平成31年 3月25日(月)		
時間	午後3時30分 ~ 午後4時00分		
参加者氏名	坂口 洋 (他会派と合同研修)		
用務先	住所	千葉県銚子市犬吠埼	
	名称	犬吠埼灯台	
目的・内容	<p>目的：志摩市の参観灯台の周辺整備の参考とするため、犬吠埼灯台を視察する。 内容：犬吠埼灯台周辺の整備状況の確認と、その周辺で事業を営む市民への灯台との関わりや灯台への思い等の聞き取りを行う。</p>		
成果・所感	別紙のとおり		

政務活動報告

2019年3月25日

昨年、志摩市で行われた「灯台ワールドサミット」を今年度開催する千葉県銚子市犬吠埼灯台の設備、周辺の整備状況を視察した。

犬吠埼灯台は明治7年(1874年)、イギリス人技師ブラントンの設計でつくられた高さ約32m、海拔52mのレンガ造りの西洋式灯台であり、志摩市内の灯台と同じく参観できる灯台である。歴史的文化的価値が高く、平成22年(2010年)4月、国の登録有形文化財に登録された。海上保安庁の「Aランク保存灯台」であり、世界灯台100選、日本の灯台50選にも選ばれている。


レンズ室横の展望台まで登ることができた、展望台への螺旋階段は九十九里浜にちなんで99段となっていた。登ると地球の丸さを感じることでできる水平線が広がっていた。安乗岬、大王崎と同じ雄大な景色である。

犬吠埼灯台資料展示館が隣接して整備されていた。犬吠埼灯台の初代レンズ、沖ノ島灯台で使われた国産第1号の1等レンズ、犬吠埼灯台の歴史、機能・役割などが学べるように立派に整理され展示されていた。注目したのは犬吠埼霧信号所霧笛舎だった。霧信号所は、霧で視界が悪い時に音で船舶に犬吠埼の位置を知らせていたものだという。今は使われていないが、当時の音を聞くことができるように展示されていた。「ボオー、ボオー」と音が響く。これら展示物、展示状況を志摩市内の灯台と比較すると、犬吠埼の方がずっと良い。周辺の整備状況も志摩とは比較にならないぐらい良く、遊歩道や、マリパーク、土産物販売店、食堂など観光地らしく整備されていた。また、近くの海岸で磯遊びもできるようになっていた。志摩の灯台周辺よりも観光客は長い滞在時間で楽しめる所となっていた。

志摩市の呼びかけで「灯台サミット」なるものを開催し、灯台を生かしたまちづくりを話しあったが、その成果がはっきりしていない。また、このサミット開催に合わせて、市内の灯台周辺の整備を進めるべきとしてきたが、若干の整備はしたものの多くの観光客を招くにはまだまだ不十分である。今年銚子市で開催する灯台サミットは11月の予定だということである。志摩からも多くの方が参加して、灯台周辺の整備のあり方、灯台を生かしたまちづくりのあり方を考えたいものである。

調査研究、研修、要請・陳情活動報告書

平成31年 4月12日

志摩市議会議長 様	報告者	会派名 日本共産党 議員氏名 坂口 洋	
年月日	平成31年 3月26日(火)		
時間	午前9時10分 ~ 午前10時50分		
参加者氏名	坂口 洋 (他会派と合同研修)		
用務先	住所	千葉県安房郡鋸南町保田 724 番地	
	名称	都市交流施設 道の駅 保田小学校	
目的・内容	<p>目的：学校の統廃合により廃校となった校舎の有効活用の参考とするため、都市交流施設・道の駅「保田小学校」を視察する。</p> <p>内容：鋸南町が整備し、指定管理者を選定し運営している都市交流施設・道の駅「保田小学校」の計画から完成までの経緯と、完成後の指定管理者選定と指定管理者の集客における戦略等を座学により聞き取りし、その後施設見学を行う。</p>		
成果・所感	別紙のとおり		

政務活動報告

2019年3月26日

千葉県鋸南町 都市交流施設 道の駅保田小学校を視察し、鋸南町役場地域振興課 まちづくり推進室 岩崎雄也 氏 と指定管理者である株式会社共立メンテナンスPKP事業本部東日本事業部町おこし企画室 大塚 克也 氏 からお話をお聞きした。

小学校の雰囲気を残しつつ廃校をリノベーションし、新たな地方拠点に再生。地元住民から愛され、メディアからも注目を集める施設となった「小学校」と名の付く全国初の道の駅である。

この施設の全体概要

- ・学校としての役目を終えた小学校を新たなコミュニティの核、地方創生の拠点として再生、農林水産物の販売や6次産業化を通じた農林漁家の経営安定を目指す。
- ・当時の小学校名をそのままに、南房総地域のランドマーク、地域の活性化、町民が活躍できるステージとして都市と農山漁村の交流拠点とした。
- ・地域センター型の道の駅として、廃校を地域福祉・防災・産業振興・地方移住定住促進拠点として整備された。

敷地面積 16462.38 m² 建築面積 2703・72 m² 延べ面積 3426・00 m² 地上2階建て高さ 11.50m

この施設の位置は、千葉県西部、都内まで車で一時間半という非常に地理的な優位性のある位置である。富津館山道路の鋸南保田ICを降りてすぐ、県道34号線に隣接し、国道127号線からも近い。東西南北交通の要所に立地していた。

鋸南町の人口を見てみると、平成初期には約12000人であったが、現在約8000人となっている。現在の高齢化率は約45%、子どもの生まれる数も平成初期は年約80人であったのが現在は30人未満となっている。このような中で鋸南町は平成の大合併において自立を選択していた。そのため早くから教育施設の再編計画を準備してきた。保田小学校を含め3校あった小学校を、平成20年に保田小学校以外の2校を統合した。そして平成26年に一つの小学校に統合し、保田小学校の施設が空いてきていたのである。

高齢化率45%、後期高齢化率20%以上と日本の中でも10年以上先を行っている高齢化最先端の町となり、あらゆるところで深刻な後継者不足と相次ぐ小学校閉校と地域活力の減退は深刻なものがあり、このまま何もしなければ、まち全体の元気がなくなってしまうという危機感があった。

このような中で、経済活性化の起爆剤となる事業を創造し、まちに人と仕事を呼び込む廃校を活用し、新たなコミュニティの核をつくる「都市交流施設・道の駅 保田小学校」プロジェクトが始動した。きっかけは平成 22 年、10 年に一度の総合計画策定のときの住民代表のアイデアであったという。(鋸南町の農業を変える、新・道の駅計画 野菜、花、売り場 コーヒーショップ、お店 農業体験などができる場所、安心して子どもたちが遊べる場所、地域の人が働ける場所、などなど)そして事業開始から開業まで約 4 年間、閉校から 1 年 9 カ月で開業している。小学校の建物が傷まないうちに、スピード感をもって進めたのであった。平成 24 年度に基本調査、平成 25 年度に実施設計、平成 26 年 3 月に保田小学校が閉校すると、平成 26 年度には実施設計し着工、平成 27 年 1 月国土交通省による「重点道の駅候補」に選定、平成 27 年度には建物外構工事、テナント等の工事などと開業準備を行い、平成 27 年 12 月には開業している。

活用した財源支援は主に農林水産省関東農政局の農山漁村活性化プロジェクト支援交付金、他に、農林水産省都市農村矯正対流総合対策交付金事業、経済産業省次世代自動車充電インフラ整備促進事業、国土交通省重点道の駅候補、内閣府地方創生推進交付金であった。全体の整備費用は約 13 億円だが、町の一般財源は約 3 億円であったとのことである。

設計者の選定は安房地区初の公開プロポーザルを実施した。日本建築学会でも有名な建築家を審査員に迎え、町民に見える形で設計者の公開プロポーザル審査を行った。全国から 37 の応募があり 6 社を 2 次選考で公開審査をしたのである。そして最優秀アイデアを示した NASA 設計共同体 (5 大学連携、4 事業所) を選定した。体育館を大きな市場に、教室を宿泊室に、周辺環境との調和、初期投資の節約、校舎を再利用のコンセプトのもとに 5 大学とともにアイデアを出し合った。

校舎を残し、小学校の雰囲気はなくさないで「保田小学校」を残した。このことにより、この学校に関わった人に限らず訪れた人がなつかしい思いを巡らすことができる施設となった。

その後、建築専門誌「新建築」に掲載され建物として注目され、日本中の建築家が訪れるようになり、観光という点のみならず、新たな分野の客層の取り込みにもつながったという。

一つひとつの施設の内容を見てみると、まず体育館は大きなマルシェとなっていた。出荷組合をつくり運営されていた。現在の会員数は約 200 名であり、増加中とのことであった。最も売り上げの多い農家は年 300 万円ということであり、全体で 1 億円の売り上げがあったという。手数料は野菜類が 18%、加工品が 20%で、うち 1%が組合の研修費として積み立て、指定管理者には 17%、19%が入る。新鮮な野菜だけでなく、道の駅保田小学校オリジナルのお土産があり、その中には昔懐かしの給食カレーや小学校気分を思い出す面白グッズがあった。私は「ソフト麺スパゲティ・カレー味、ケチャップ味食べ比べ」を購入した。

校舎 2 階南側に、町民や観光客がゆったりするスペースが増築され、幅 4m長さ約 70m

の「まちの縁側」というロングリビングスペースとなっていた。日中は自由にくつろげることができ、イベント時にも活用できる多目的スペースであり、夜間は宿泊者のスペースとなる。空調に頼らない空気循環システムになっていた。もともと小学校は避難所であったことから、今も広域避難所として認定された防災拠点になっている。いざというときに教室の簡易宿泊施設と合わせて避難場所と使えるスペースとなっていた。災害時 450 人が収容可能で、IHコンロ、シンクの設置により炊き出しも可能である。太陽光発電、軽油を燃料とした非常用自家発電電源など防災機能も強化されていた。

グラウンドは駐車場だけでなく「原っぱ広場」という子どもたちが遊ぶことのできる公園。教室はいろいろと活用されていた。

ひとつのスペースは「まちのコンシェルジュ」となっていた。まちの観光情報、生活情報の案内所、ワンストップ窓口となっている。大型モニターなども用意され交通情報、天気情報なども提供、宿泊・温泉施設、公共施設の受付フロントとしての役割も持っていた。注目したのは移住の受け入れや体験プログラムに関する情報も発信していた点である。まさに町全体のコンシェルジュ機能を担っていた。

ミニサイズの遊具のある「こどもひろば」もあり、昔懐かしい給食メニューや手作りの美味しいものが揃った飲食店がテナントとして1階教室を利用していった。食器は給食用のものであった。どの部屋も黒板が残され、極力教室の雰囲気を残したデザインとなっていた。

音楽室はピアノと壁面ミラーがあり、音楽、ダンスなどの稽古、各種サークル活動の練習、ミニコンサート等に利用できる。

家庭科室は特産品を活用した加工品開発、体験教室などに利用できるように残されていて、加工室と調理実習室の二区画があった。業務用の真空包装機、プレス式イカ焼き機、野菜乾燥機、ミキサー、ジューサーなどとともに、あらゆる調理加工ができるスチームコンベクションオープンという万能加熱調理機が備えられていた。

「まちのギャラリー」として写真、絵画などの展示、各種会議に利用できる部屋もあった。

二階の教室は「学びの宿」の名で教室の雰囲気の残った宿泊施設で、団体合宿用の大部屋もあった。

入浴施設だけは新たに増設していた。「里の小湯」という名で、日帰り入浴も楽しめる。

この施設は株式会社共立メンテナンス（ドーマー・イン・ホテルチェーン等を手掛けている）が指定管理を受けており、本社の方が校長（駅長）として出向いて活躍されていた。開業一年目の売り上げは約 6 億円、レジ通過客数 30 万人、推定来場者数は約 60 万人を超えたという。地元雇用はシニア世代を中心に約 50 名となった。また約 200 の事業者が様々な形で参入したという。その後、イベントなどを繰り返し実施し、集客の努力をしていた。最初の 5 年間の指定管理料は 4050 万円で契約したが、最初の 3 年で 4000 万円、残りの 2 年間で 50 万円を受け取り、6 年目以降は黒字化に成功したため、町に 20%、町づくり基金に 40%、指定管理者が 40% の収益配分をしているとのことである。

この施設からは多くの学び参考にできることが多くあった。

- ・小学校の名と施設を残しつつコンセプトをしっかりと持った点。
- ・道の駅整備でありがちな地域農産物直売所による地域経済の活性化だけでなく、さらに何を足せば町民と観光客が集まるのかを検討し、多様な事業を同時に進行させている点、
- ・官学民連携で専門的知識・技能を外部から積極的に登用し、公共施設再生プランを策定し、さらにそれに新たな人材が集まってきている点。
- ・観光や食の情報発信、農林水産物の販売と6次産業化、シニア世代の雇用創出、地方移住定住促進、生涯学習の体制整備などなど多くの政策・施策間連携が考えられた取り組みになっている点。

これらは今後の志摩市における政策立案に大いに生かすものである。

犬吠埼灯台及び道の駅「保田小学校」



犬吠埼灯台入口



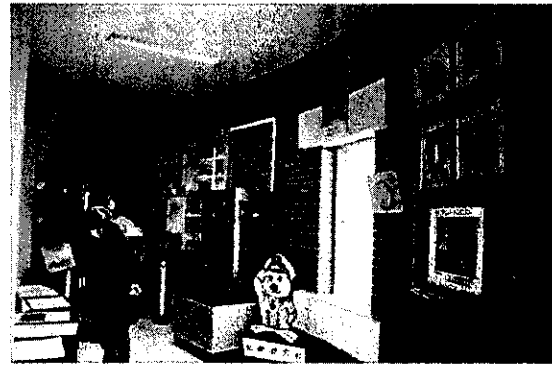
展示室入口



灯台内



展示室内



展示室内奥



休憩所



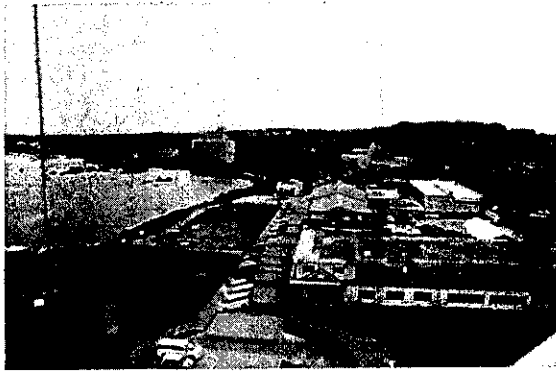
資料展示室



展示室 1 階



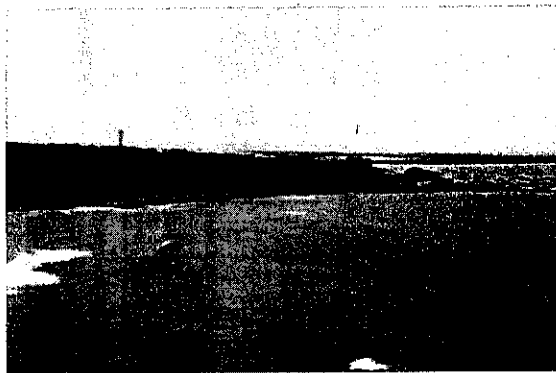
展示室 2 階



眺望 (ホテル側)



眺望 (南方向)



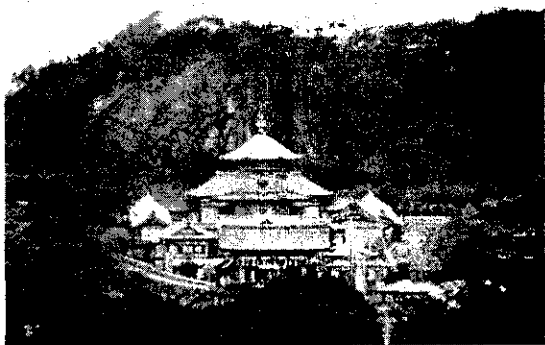
眺望 (北方向)



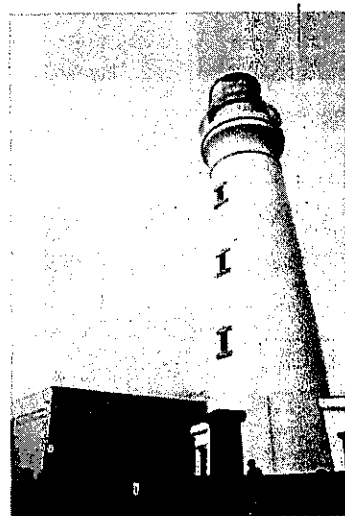
眺望 (海岸線)



震災により閉鎖したホテル磯屋



萬願寺



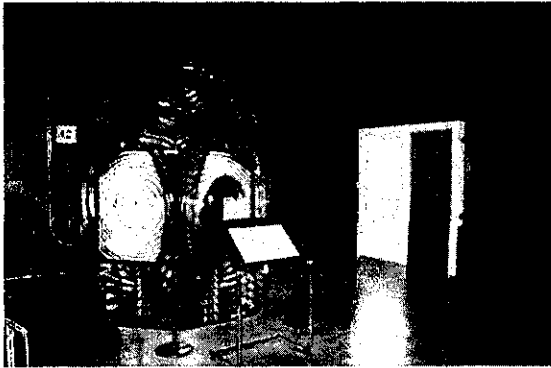
敷地内



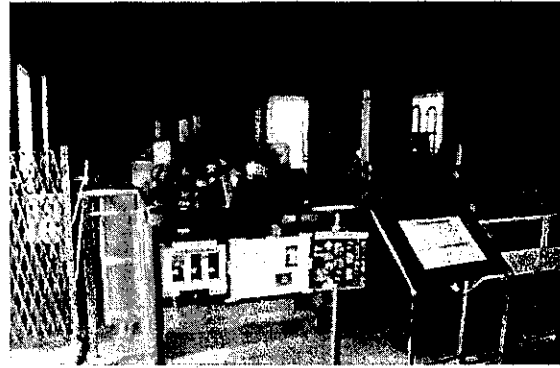
霧笛舎



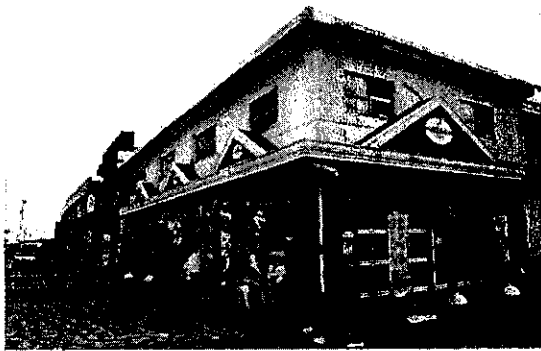
霧笛舎内部



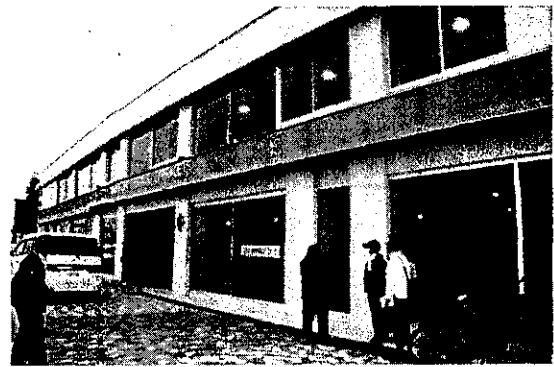
霧笛舎内部



霧笛舎内部



商業施設 (なぎさや)



商業施設 (犬吠テラステラス)



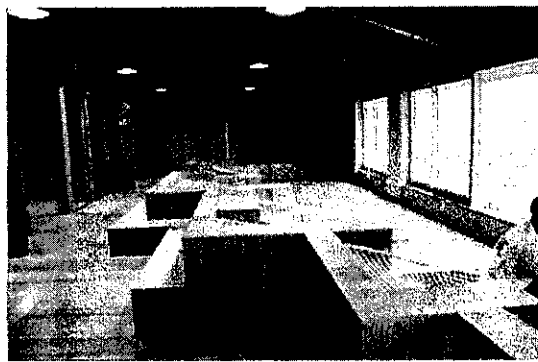
犬吠テラステラス 1階



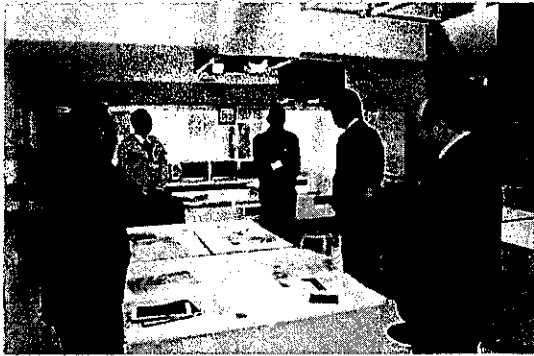
犬吠テラステラス 1階



犬吠テラステラス 2階



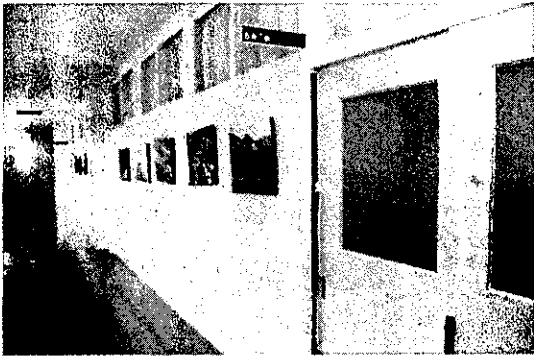
犬吠テラステラス 2階



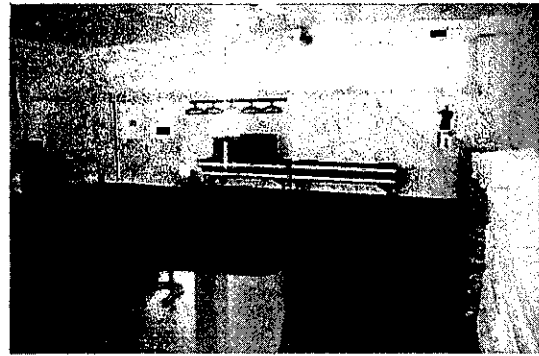
調理室にて研修



インフォメーション



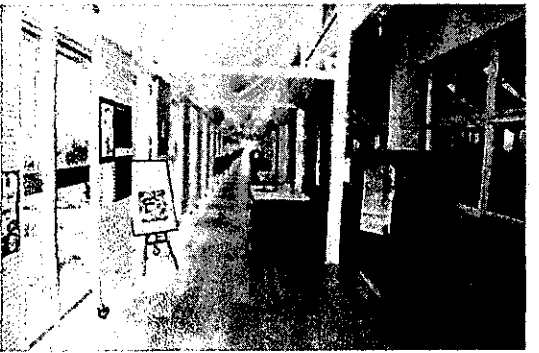
廊下



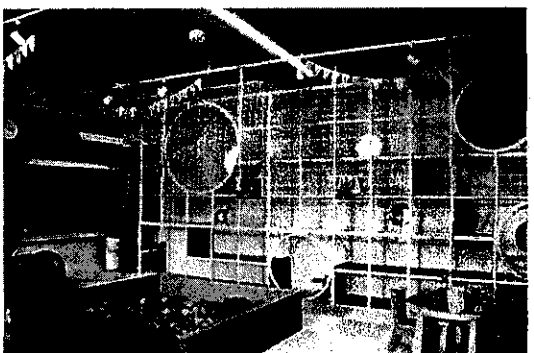
宿泊室（大部屋）



宿泊室（小部屋）



まちの縁側



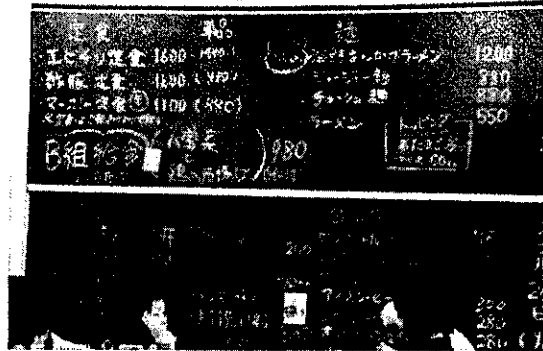
子ども広場



テナントの食堂2年B組



店内にある学校のトロフィー



黒板を利用したメニュー板



校舎前に設置された顔出しパネル



道の駅「保田小学校」



体育館を利用した直売施設



直売施設内部



直売施設内部



移設した二宮尊徳像